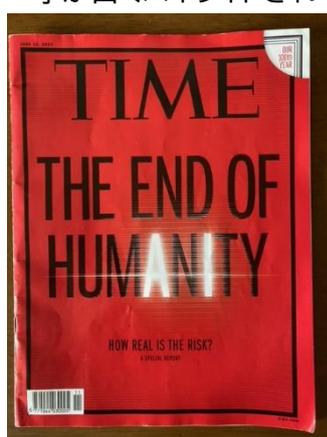


「AI vs. 人類」

学校長 笠原 究



米国の「TIME」誌 6月12日号のタイトルは THE END OF HUMANITY で、A と I の文字が白くハイライトされておりました。「人類の終わり」と題されたこの特集記事は、現在ほぼ無規制で行われている人工知能の開発競争により、人類を支配するような AI が登場する可能性について述べていました。この開発競争が東西冷戦時代の軍拡競争と異なるのは、最終的な勝者は人間ではなく AI であるということです。競争を勝ち抜いた AI が、人類排除の方向に向かわない保証はありません。宇宙船を制御しているコンピュータが暴走する「2001年宇宙の旅」や、AI「スカイネット」が人類を滅ぼそうとする「ターミネーター」、人間がコンピュータの動力源となっている「マトリックス」などの SF 映画を想起させる内容でした。

昨年末に Chat GPT が公開されて以来、AI とどう向き合っていくかが大きな話題になっています。私も何度か使用してみました。その実力は驚異的でした。自分で書いた英文を貼り付けて校正を頼むと、実にきれいな英文に直してくれます。教科書の英文を張り付けて、この英文に関する読解問題の作成を頼めば、あっという間にきちんとした問題をいくつも作ってくれました。前回のひこばえの原稿では、spring を使った例文の作成を頼みましたが、実にバラエティーに富んだ例文を提示してくれました。辞書を使って探していたらゆうに1時間はかかることを数秒でやってのけたのです。条件に沿った文章もあっという間に作成してくれますし、「人生の意味とは何か」という哲学的な質問にも、ユーモアこそないものの、割ときちんとした回答を示してくれます。今や人生相談の相手として AI を使っている人もいます。

これからどのように AI と向き合っていくかが、人類の大きな課題となるでしょう。先日、AI を悩み相談に使っていたベルギー人の男性が自殺したというニュースが取り上げられていました。気候変動を心配していた男性がいろいろと相談を重ねるうちに、AI の誘導で死に至ってしまったと、男性の妻は訴えているようです。AI と対話していると、その反応があまりに自然なので、まるで優秀なカウンセラーと対話しているような気分になります。しかし AI は人間ではなく、機械なのだという当たり前の事実を忘れないことが大切です。AI はネット上のあらゆる情報を使いながら、相手の問いかけに合わせた対応をします。悲観的な口調で話しかける人間には、悲観的な口調で返します。AI の対応は自分の現在の感情の反映に過ぎないと客観

的に考えることができれば、男性も死なずに済んだの
かもしれません。

AI と賢く向き合っていくことが重要です。あくまで
思考のためのツールとして使用するが、最終的な判断
は人間が下し、それに対して責任を持つことが AI の
活用には欠かせないと思います。これからは教育分野
にもどんどん AI が入ってくることでしょう。しかし最
初から条件を示して文章をいちから作成してもらうよ
うな、丸投げするやり方は愚かな使い方です。あくまで最初は自分で文章を書き、それを AI に
校正してもらい、自分の文章とどこが異なるかを考える、といった使い方の方がずっと自分を
成長させてくれるでしょう。AI は人間が生み出したツールであり、AI の奴隷になってはいけな
いのです。本校の松田教諭が、「人間には愛があるから、AI には負けない」と言っておりました。
この言葉を信じたいと思います。ちなみにこの拙文はすべて自分で書きました。AI は使用して
おりません。

